



(題字 小黒千足 学長)

第331号

(平成4年3月号)



▲ 平成4年度富山大学入学者選抜試験の前期日程・A日程の合格者発表  
(平成4年3月7日(土) 学生部前特設掲示場)

## 目 次

## 学 内 諸 報

- ◆ 平成4年度富山大学入学試験  
（前期日程・A日程）の実施 ..... 3
- ◆ 臨時東海・北陸地区国立大学  
事務局長会議の開催 ..... 4
- ◆ マレーシア工科大学副学長の  
来学 ..... 4
- ◆ 公務員試験に関する講習会の  
開催 ..... 5
- ◆ スキー講習会の実施 ..... 5
- ◆ 留学生と教職員による交流会  
（スキー）の実施 ..... 6
- ◆ 部局長の選出 ..... 7
  - 次期教養部長に大谷教授
  - 次期保健管理センター所長に鱒澤教授
  - 次期附属小学校長に宗教授
  - 次期附属中学校長に加瀬教授
  - 次期附属養護学校長に新井教授
  - 次期附属幼稚園長に岸井教授
  - 次期附属教育実践研究指導センター長に  
佐々木教授

人 事 異 動 ..... 10

## 学 事

- ◆ 平成4年度大学院・専攻科入学者  
選抜状況 ..... 10
- ◆ 平成4年度文部省在外研究員派遣  
者の決定 ..... 12
- ◆ 平成4年度文部省内地研究員派遣  
者の決定 ..... 12
- 寄 稿 海外レポート
  - ◆ イリノイ大学に派遣されて ..... 13  
— 経済学部教授 榊原 英夫 —
- 関 係 法 令 ..... 15
- 諸 会 議 ..... 15
- 叙 位 ・ 叙 勲 ..... 16
- レ ク リ エ ー シ ョ ン ..... 16
- 海 外 渡 航 者 ..... 16
- 職 員 消 息 ..... 16
- 主 要 行 事 ..... 17



平成4年度

富山大学入学試験（前期日程・A日程）が無事終了

平成4年度本学入学者選抜試験の前期日程・A日程の学力検査等が、去る2月25日(火)に実施されました。

試験当日は、早朝からあいにくの雪模様となりましたが、大きな交通渋滞や事故もなく、受験者は朝早くから検査場に到着していました。

今回は、初めての分離・分割方式による入学試験ということから教職員もこれまで以上に緊張していましたが、学力検査・実技検査ともスムーズに進行し、無事終了しました。

受験状況は、志願者4,548人に対し287人が欠席し、全体の受験者数は4,261人で欠席率は6.3%でした。また、私費外国人留学生も65人が受験しました。

前期日程・A日程の合格者発表は、3月7日(土)13時に本学で行われ、私費外国人留学生の合格者は3月20日(金)に発表されます。

なお、後期日程・B日程の入学者選抜は、3月14日(土)に教育学部小学校、養護学校及び幼稚園の各教員養成課程並びに理学部化学科が、実技検査あるいは小論文の検査を実施します。

◎受験状況

	人文学部	教育学部	経済学部	理学部	工学部	大学全体
志願者数	642人	607人	1,520人	537人	1,242人	4,548人
受験者数	602	579	1,424	505	1,151	4,261
欠席者数	40	28	96	32	91	287
欠席率	6.2%	4.6%	6.3%	6.0%	7.3%	6.3%



▲  
暖冬の富山も2次試験当日は、雪のちらつくあいにくの空模様となった



▲  
緊張の面持ちで試験開始の合図を待つ受験生  
(教育学部検査室)

—— 本学が当番校となり ——

臨時東海・北陸地区国立大学事務局長会議を開催

去る2月27日(木)・28(金)の両日、本学が当番校となり臨時東海・北陸地区国立大学事務局長会議が開催されました。

当日の協議事項は、次のとおりで熱心に情報交換・意見交換があり、今後に資することになりました。

1. 地区内の職員研修・人事交流について
2. 自己点検・評価の取組み状況について
3. 事務局長会議の運営について

マレーシア工科大学副学長の来訪

去る2月21日(金)マレーシア工科大学副学長アブ・アザン・MD・ヤシン博士(通訳1名同行)が同大学と本学との学術交流を推進する目的で来学されました。

始めに小黒学長を表敬訪問され、学長室で事務局長、工学部長等を交え懇談されました。

引き続き、工学部大会議室において多々工学部長、工学部評議員、龍山地域共同研究センター長他4名の工学部教授と学術交流に関する事項について、種々意見交換が行われました。

マレーシア工科大学との交流は、平成元年度に宮下和

雄教授他3名の工学部教授が同大学を視察したことが契機となり、今回は教官の交流等学術交流の具体的内容について話し合われました。

同副学長から、マレーシアの工業の振興のため工業技術者の育成が急務とされ、同大学はマレーシアにおける唯一の工学系の大学としての使命を担っており、その役割を果たすため富山大学との学術交流を促進させたい旨要望が述べられました。

最後に同副学長は、出席者の案内で工学部及び地域共同研究センターの施設・設備を視察されました。



▲ 多々工学部長ほか工学部関係者と懇談するマレーシア工科大学副学長

公務員志望学生を対象に

## 公務員試験に関する講演会を開催

— 学生部 —

去る2月12日（水）午後1時から経済学部201番教室において、公務員を志望する本学学生を対象に「公務員試験に関する講演会」が開催され、延べ約230名の学生が聴講しました。

当日は、人事院中部事務局第二課試験係長小林輝久氏から「国家公務員Ⅰ種・Ⅱ種採用試験の概要について」、

また、富山県人事委員会事務局任用課長山上弘一氏から「富山県職員採用試験の概要について」と題してそれぞれ講演をいただきました。出席学生は真剣にメモを取り、活発な質疑応答が行われるなど盛況のうちに終了しました。



▲ 熱心に聴き入る公務員志望学生、女子学生の姿が目立つ講演会となった

## — 共済主催行事 —

### スキー講習会が実施される



文部省共済組合富山大学支部の平成3年度主催行事であるスキー講習会が、組合員及び家族の相互親睦並びに、冬期における健康の維持向上を図ることを目的として、初級者及び中級者を対象に、受講者17名、自由参加者37名の参加を得、去る2月1日（土）～2日（日）極楽坂スキー場にて実施されました。

初日、受講者が文部省登山研修所においてビデオによ

る事前学習を受けている間中、降り止む気配のなかった雪でしたが、翌日はすっかり晴れ上がり、前夜の低気温も効を奏して、県内ではめったに出会えないような最高の雪質となりました。これに加え、実技講師に迎えた教育学部堀田朋基助教授ほか本学基礎スキー部員による個々のレベルに合わせた的確な指導で、受講者はじめ参加者一同、大いにスキーを楽しむことができました。



▲ 晴天に恵まれ、講習の合間にスナップに収まる職員とその家族

 スキーを通して 

## ○○○ 留学生と教職員が交流 ○○○

— 教 養 部 —



▲ 初めての雪の感触を堪能する留学生

教養部では、去る2月1日(土)、2日(日)の1泊2日の日程で上新川郡大山町「極楽坂スキー場」において、教養部在籍のマレーシア、中国、韓国、インドネシア、台湾の5ヶ国からの留学生27名と大谷教養部長はじめ指導教官・職員等19名、合わせて46名の参加を得て交流会が行われました。

初日はあいにくの雪模様でしたが、その夜の懇親会をはずさんで、2日目は快晴、絶好のスキー日和となりました。この交流会は、外国人留学生と教職員がスキーを通じて富山の自然に親しみ、一層の相互理解を深めるとともに、国際親善に資することを目的に昨年度初めて実施されました。昨年は留学生の間で大好評を博したことから、今年度は早くからその準備に取り組みました。

さて初日、いよいよスキー場に出て、開講式、その後4班に分かれて体育教官を中心とした指導を開始。この日に備えて練習を行っていた数名を除いては、文字通り初心者。それでも、少しの時間でなんとか滑りだし、その上達ぶりには驚かされました。

翌日、頂上から滑り降りて来るまでに上達した者が数名、また、スロープを描いて来る者、何度も転びながらも最後まで諦めずに取り組む者など、スキーどころかあんなに積もった雪を見るのさえ生まれて初めてがほとん

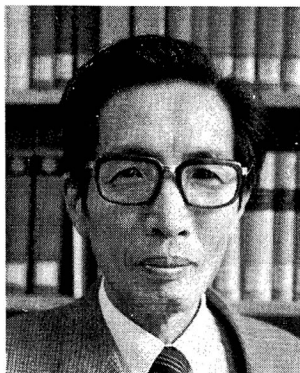
どの留学生ですが、それぞれがそれなりにスキーと雪を満喫し、大変成果のある交流会となりました。



▲ 宿舎での懇親会も大いに盛り上がる

## 次期教養部長に大谷教授を再選

—— 任期は平成4年4月1日から1年間 ——



大谷重彦教養部長の任期が、平成4年3月31日で満了することに伴い、教養部教授会は、去る2月12日（水）に次期教養部長候補者の選挙を行いました。

その結果、現職の大谷重彦教授が再選されまし

た。任期は平成4年4月1日から1年間。

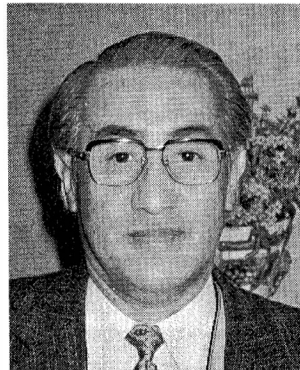
大谷教授は、昭和29年3月京都大学（旧制）文学部文科学科独文専攻を卒業後、引き続き同30年3月まで京都大学大学院に在学、同33年4月から富山大学文理学部講師、同39年3月同助教授、同42年4月教養部発足と同時に教養部助教授に配置換となり、同46年4月教養部教授に昇任し現在に至っています。

なお、この間、昭和60年4月から富山大学評議員、昭和63年4月から教養部長を併任されています。

担当は、ドイツ語、64才。

## 次期保健管理センター所長に経済学部鮎澤教授を選出

—— 任期は平成4年4月1日から2年間 ——



風巻紀彦保健管理センター所長の任期が、平成4年3月31日で満了することに伴い、去る2月27日（木）開催の保健管理センター委員会において、次期所長候補者の選考が行われ、経済学部から推薦のあった経済学部鮎澤

晃三教授が選出されました。任期は、平成4年4月1日から2年間。

鮎澤教授は、昭和35年3月青山学院大学大学院経済学研究科修士課程を修了の後、鹿児島経済大学講師・助教授を経て、昭和47年4月富山大学教育学部助教授に就任、昭和56年6月同学部教授、平成元年4月に経済学部教授に配置換となり、現在に至っています。

専門は、理論経済学、兵庫県出身。

なお、鮎澤教授は、就任に当たり次のように抱負を語っておられます。

：社会の変化はますますそのテンポをはやめており、それに伴って大学教育の対応にも社会的に極めて厳しいものが求められてきている。従って、当然、学生もこれまで以上に精神的・肉体的にストレスのたまりやすい状況下におかれている。また、国際化の一層の進展から外国人留学生は急増の傾向をみせており、その健康状態への配慮も欠かせない問題となってきている。その意味でも、当センターの役割は一層重要なものとならざるをえない。

以上のようなことから、微力ではありますが、精一杯、学生の健康管理に努力していきたく存じております。

各方面からの皆様方の御協力を心からお願い申し上げます。次第です。

## 次期教育学部附属学校（園）長の改選

—— 任期は平成4年4月1日から2年間 ——

教育学部附属小学校長、同中学校長、同養護学校長及び同幼稚園長の任期が、平成4年3月31日で満了することに伴い、教育学部教授会は、去る2月12日（水）に次期附属学校（園）長候補者の選挙を行いました。その結果、附属小学校長に宗 孝文教授を再選、同中学校長に加瀬

正二郎教授を選出、同養護学校長に新井文男教授を再選、同幼稚園長に岸井勇雄教授を再選しました。

加瀬正二郎教授は新任、他の3名は再任となり、任期は、平成4年4月1日からそれぞれ2年間。



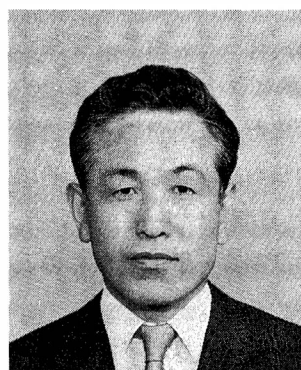
宗 孝文教授は、昭和34年3月京都大学教育学部卒業、昭和36年3月京都大学大学院教育学研究科修士課程修了、昭和39年3月同研究科博士課程を単位取得退学後、大阪府科学教育センター職員、大学教員を経て、昭和56年4月富山大学教育学部助教授、昭和59年1月教育学部教授となり、平成元年4月から附属小学校長に併任され、現在に至っています。

次期附属小学校長の宗教授は、昭和34年3月京都大学教育学部卒業、昭和36年3月京都大学大学院教育学研究科修士課程修了、昭和39年3月同研究科博士課程を単位取得退学後、大阪府科学教育センター職員、大学教員を経て、昭和56年4月富山大学教育学部助教授、昭和59年1月教育学部教授となり、平成元年4月から附属小学校長に併任され、現在に至っています。

専門は、教育史。

なお、宗 教授は、附属小学校長就任に際して次のように抱負を語っておられます。

児童たちが楽しく学べる雰囲気をつくりたいと、これまでも心がけてきたし、今後もそうありたい。そのうえで、実践研究と教育実習生の受入れという、附属としての役割をより十全にはたせるよう努めたい。また、試行的に進めてきた、生活科などを含む新学習指導要領と評価法、及び週五日制の本格実施に向けて、より順調な移行をはかりたいと思っている。



加瀬教授は、昭和32年3月千葉大学教育学部を卒業、昭和39年3月東京大学大学院教育学研究科修士課程を修了後、公立学校教員を経て、昭和42年4月富山大学教育学部講師、昭和45年11月教育学部助教授、昭和57年4月教育学部教授となり、昭和62年6月から富山大学評議員に併任され、現在に至っています。

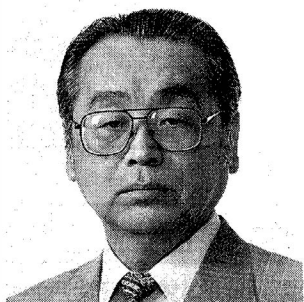
次期附属中学校長の加瀬教授は、昭和32年3月千葉大学教育学部を卒業、昭和39年3月東京大学大学院教育学研究科修士課程を修了後、公立学校教員を経て、昭和42年4月富山大学教育学部講師、昭和45年11月教育学部助教授、昭和57年4月教育学部教授となり、昭和62年6月から富山大学評議員に併任され、現在に至っています。

担当は、英語科教育。

なお、加瀬教授は、附属中学校長就任に際して次のように抱負を語っておられます。

このたび、附属中学校長に選出されましたが、何分にも未経験の任務であり、不敏の身でもありますので、附属学校としての使命を考え、かつ生徒にとって楽しい学校、教職員にとって働き甲斐のある職場たらしめるといふことだけでも容易な課題ではないように思われます。いまはただ、微力ながら責めを果たすべく努力をいたしてまいりたいと考えております。皆様の御理解と、関係各位の御援助、特に教職員の方々の御協力をお願い申し上げます。





次期附属養護学校長の

新井教授は、昭和34年3月東京芸術大学音楽学部を卒業、公立学校教員を経て、昭和48年4月富山大学教育学部講師、51年6月教育学部助教授、平成元年4月教育学部教授となり、平成2年4月から附属養護学校長に併任され、現在に至っています。

担当は、声楽。

なお、新井教授は、附属養護学校長就任に際して次のように抱負を語っておられます。

附属養護学校は、昭和42年、養護学校教員養成課程の新設に伴っての特殊学級の開設に始まり、昭和51年に養護学校として設置されている。現在は、小学部・中学部・高等部からなり73名の生徒が学んでいる。開設から16年を経て、日々の教育活動と研究の更なる充実・発展が期待される。教育環境の整備などとともに微力ながら力を尽くしたいと存じます。皆様の御理解とお力添えをお願いします。



次期附属幼稚園長の岸井教授は、昭和30年3月東京大学教育学部を卒業、昭和34年3月東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了、昭和37年3月同研究科博士課程を単位修得退学後、公立学校教員、文部省初等中等教育局幼稚園課教科調査官を経て、昭和63年4月富山大学教育学部教授となり、平成2年4月から附属幼稚園長に併任され、現在に至っています。

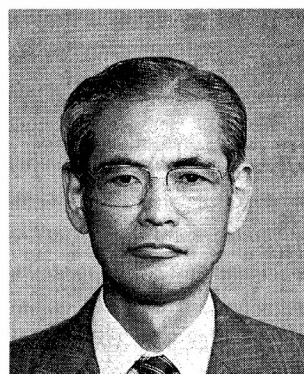
担当は、幼児教育。

なお、岸井教授は、附属幼稚園長就任に際して次のように抱負を語っておられます。

前園長中谷教授の実績をけがさぬよう努めてきましたが、幸い杉谷副園長ほか有能かつ誠実なスタッフに恵まれ、大学・学部・学園・保護者会をはじめ、県内外の温かいお力添えをいただいで着実に歩みを進めることができました。この間、国立大学附属幼稚園の全国大会の開催、年複数回の公開研究会、各地からの絶え間ない参観者などに忙殺されましたが、附属の使命である教育・研究・実習の充実の歩みを今後一層確かなものにしていきたいと願っています。

## 次期教育学部附属教育実践研究指導センター長に佐々木教授を再選

—— 任期は平成4年4月1日から1年間 ——



佐々木光三教育学部附属教育実践研究指導センター長の任期が、平成4年3月31日に満了することに伴い、教育学部教授会は、去る2月12日（水）に同センター長候補者の選挙を行いました。

その結果、現職の佐々木光三教授が再選されました。併任期間は、平成4年4月1日から平成5年3月31日まで。佐々木教授は、昭和27年3月東京大学法学部を卒業後、公立学校教員、富山県教育委員会学校教育部長、富山中部高等学校長等を経て、昭和61年9月同センターの教授

となり、昭和63年4月から同センター長を併任され、現在に至っています。

なお、佐々木教授は、センター長就任に際して次のように抱負を語っておられます。

大学全体を大きな変革に向かわせる力学は、同時に、教師教育を使命としてきた学部の基本的な在り方にも影響を与えています。ただ、他方から見れば、今日の状況は力量ある教師の育成・確保を差し迫った社会的課題としている事実も疑いのないところであり、その目的に沿い、センターの進路に誤りがないように努めたいと考えます。皆様の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
転 任	4. 3. 1	釜谷美貴子	文部事務官（高岡短期大学庶務課）	文部事務官（庶務部庶務課）
	”	鍋嶋 美希	” （庶務部庶務課）	” （高岡短期大学庶務課）
臨時的任用	4. 2. 9	東海ゆかり		教 諭（教育学部附属幼稚園）（～4.10.31）
臨時的任用の更新	4. 2. 3	東海ゆかり	教 諭（教育学部附属幼稚園）	臨時的任用を更新する（～4. 2. 8）
退 職	4. 2. 9	東海ゆかり	教 諭（教育学部附属幼稚園）	平成4年2月8日限り任期満了により退職した
	4. 2. 23	林 敏和	事務補佐員（附属図書館）	平成2年2月22日限り退職した
	”	太田 茂穂	” （ ” ）	”
	”	中村 繁之	” （ ” ）	”
	”	伊藤 克江	” （ ” ）	”
	4. 3. 1	津田 明彦	技術補佐員（経理部主計課）	平成4年2月29日限り退職した
	”	浅野 一夫	” （ ” ）	”
	”	多胡 久	” （ ” ）	”
	”	森野 勇	” （ ” ）	”
	”	平井 徹	” （ ” ）	”
育児休業	4. 2. 9	中田 良子	教 諭（教育学部附属幼稚園）	育児休業を許可する（～4.10.31）

## 学

## 事

### 平成4年度富山大学大学院・専攻科入学者選抜状況について

平成4年度本学大学院4研究科及び1専攻科の入学者選抜試験が下記のように実施され、別表のとおり合格者が発表されました。

#### ◎大学院人文科学研究科

出願期間 平成4年1月7日(火)～平成4年1月17日(金)

選抜試験 平成4年2月3日(月)

合格発表 平成4年2月14日(金)

#### ◎大学院経済学研究科

出願期間 平成3年9月17日(火)～平成3年9月24日(火)

入学試験 平成3年10月8日(火)

合格発表 平成3年10月18日(金)

#### ◎大学院理学研究科

出願期間 平成3年8月17日(土)～平成3年8月23日(金)

入学試験 平成3年9月5日(木)～平成3年9月6日(金)

合格発表 平成3年9月13日(金)

#### ◎大学院理学研究科（第二次）

出願期間 平成4年1月16日(木)～平成4年1月22日(水)

入学試験 平成4年2月6日(木)～平成4年2月7日(金)

合格発表 平成4年2月14日(金)

## ◎大学院工学研究科

出願期間 平成3年8月17日(土)～平成3年8月23日(金)  
 入学試験 平成3年9月3日(火)～平成3年9月4日(水)  
 合格発表 平成3年9月13日(金)

## ◎大学院工学研究課(第二次)

出願期間 平成4年1月16日(木)～平成4年1月22日(水)  
 入学試験 平成4年2月4日(火)～平成4年2月5日(水)  
 合格発表 平成4年2月14日(金)

## 大 学 院

研究科	専 攻	募集人員	入学志願者	受 験 者	欠 席 者	合 格 者
人 文 科 学 科	日 本 ・ 東 洋 文 化 専 攻	5	※ 2 11	※ 2 11	0	8
	西 洋 文 化 専 攻	5	7	6	1	4
	計	10	※ 2 18	※ 2 17	1	12
経 済 学 科	地 域 ・ 経 済 政 策 専 攻	4	5	5	0	4
	企 業 経 営 専 攻	4	※ 2 20	※ 2 20	0	※ 1 8
	計	8	※ 2 27	※ 2 27	0	※ 1 12
理 学 研 究 科	数 学 専 攻	8	10	10	0	10
	物 理 学 専 攻	8	※ 1 18	※ 1 18	0	※ 1 13
	化 学 専 攻	10	※ 1 17	※ 1 17	0	※ 1 15
	生 物 学 専 攻	8	20	20	0	17
	地 球 科 学 専 攻	8	8	8	0	8
	計	42	※ 2 73	※ 2 73	0	※ 2 63
工 学 研 究 科	電 気 工 学 専 攻	10	8	8	0	8
	工 業 化 学 専 攻	10	22	22	0	20
	金 属 工 学 専 攻	8	※ 1 15	※ 1 15	0	※ 1 13
	機 械 工 学 専 攻	10	10	10	0	10
	生 産 機 械 工 学 専 攻	8	※ 1 10	※ 1 10	0	※ 1 8
	化 学 工 学 専 攻	8	※ 1 13	※ 1 13	0	※ 1 13
	電 子 工 学 専 攻	8	※ 2 13	※ 2 13	0	※ 2 11
	計	62	※ 5 91	※ 5 91	0	※ 5 83
合 計		122	※ 11 209	※ 11 209	1	※ 8 158

注：※印は、外国人留学生を示し外数である。

## 専 攻 科

専 攻 科	募集人員	入学志願者	受 験 者	欠 席 者	合 格 者
教 育 専 攻 科	5	2	2	0	1

## 平成4年度文部省在外研究員派遣者の決定

種 類	所 属	職 名	氏 名	主たる滞在地及び当該滞在地の属する国名並びに派遣先の機関名	調 査 研 究 題 目	派 遣 期 間
長期(甲)	教育学部	助教授	長谷川総一郎	クラクフ (ポーランド) クラクフ大学	立体造形の教材研究と調査	平成4年10月23日 ～ 平成5年8月21日
	工学部	助教授	高瀬 均	モントリオール (カナダ) マックギル大学	液中微粒子の分散制御に関する研究	平成5年3月18日 ～ 平成6年1月17日
短 期	理学部	教 授	鈴木正昭	ブルーミントン (アメリカ合衆国) インディアナ大学	多変数関数論	平成4年9月1日 ～ 平成4年10月31日
	工学部	教 授	竹越栄俊	アンアーバ (アメリカ合衆国) ミシガン大学	粉体を利用した断熱に関する研究	平成4年7月28日 ～ 平成4年9月27日
若手教官	人文学部	助教授	大工原ちなみ	ケント (アメリカ合衆国) ケント州立大学	ユダヤ系作家研究	平成4年5月23日 ～ 平成5年3月22日

## 平成4年度文部省内地研究員派遣者の決定

所 属	職 名	氏 名	受入れ機関	研 究 題 目	研 究 期 間
理学部	助 手	古 田 高 士	新 潟 大 学	概エルミート多様体の幾何学	平成4年9月1日 ～ 平成5年2月27日
人文学部	講 師	中 村 雅 之	法 政 大 学	中国少数民族における中国語の受容に関する研究	平成4年9月1日 ～ 平成5年2月27日

## 寄稿 海外レポート

## イリノイ大学に派遣されて

経済学部教授 榊原英夫

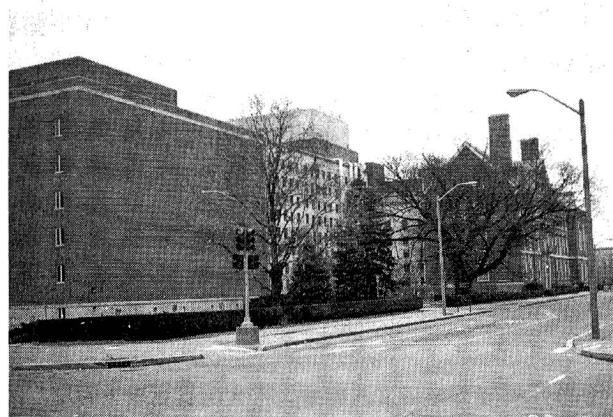
平成3年3月から10カ月間、文部省在外研究員としてアメリカのイリノイ大学に派遣されました。同大学は、シカゴから南へ200kmほど離れたアーバナ・シャンペーンというツウィンシテイにある、1867年に創設された州立の総合大学です。両市あわせて10万足らずの人口のうち約3万6千が学生です。そのうち2,700人ほどが留学生で、約100カ国から集まっています。同大学は、2.8kmほどのキャンパスの他に、空港、ゴルフ場、農場、公園を持っています。また、7万人規模のアメフト専用のスタジアム、2万人規模の大ホール、大小4つからなるオーケストラや演劇のためのホールなどがあります。

特に注目すべき施設は、蔵書数約700万冊・その他400万点を有する全米3位の大学図書館です。10階建ての各フロアの数箇所文献検索用の端末機とコピー機が設置されています。端末機により探している文献が学内のどの図書館のどこにあるかが直ちにわかります。他大学にある図書も大学間を巡回しているバスにより数日中に届けられます。また、各分野の文献データベースがあり、キーワードを入力すれば、概要付きの文献リストが直ちに入手できます。大学にない文献については、その場で発注伝票を自動的に作成できます。私は、約800種類の経営・会計関係の雑誌のデータベースを利用して極めて効率的に文献の収集をすることができました。開館時間は、朝9時から夜12時までで、日曜日にも開館しています。

私は、客員研究員として、商学部の会計学科と付置の国際会計センターに所属しました。同学部には、会計学科の他に財務、経営、経済の3学科があります。「パブリック アカウンティング レポート」という調査によれば、会計学科のプログラムの評価は、学部・大学院とも常に全米1位です。このことは、30名を超えるスタッフによる多様なカリキュラムによるものと思われま。ただ、後でわかったのですが、当大学院で会計学専攻のPh.Dを授与された者が、1990年までの累積で294人（ちなみに2位のテキサス大学は200人）と多く、そのほとんどが、全米の各大学で教職についており、プログラムの評価に参加しているとのことでした。母校愛なるものがアメリカ人にあるか否かは定かではありませんが、日本人の私にとっては、この評価結果に客観性があるようには思われま。



▲ イリノイ大学のキャンパスと講堂



▲ イリノイ大学中央図書館

私は、秋のセミスターで院生対象の「国際会計」という授業に参加しました。受講性の多くは、10数カ国からの留学生であり、構成メンバー自体がインターナショナルなものでした。授業では、それぞれの母国の会計基準についてのプレゼンテーションに基づいて活発に討論がなされていました。留学生特に日本人によるプレゼンテーションに比べて、ネイティブの学生によるその巧みさには、驚かされました。この差は、単にことばのハンディによるものではないように思われ

ました。アメリカの高校では、英語の授業時間に多くの古典や現代の戯曲を読ませたり、演技力や表現力を習得させるための「演技」の授業があるものの本で読んだことがあります。なるほどかれらのプレゼンテーションは、演技をしているように思われました。黙して語らず腹芸を得意とする日本人が、政治やビジネスの交渉の場で、しばしば彼らの演技に翻弄されるのは、当然であるように思われます。

また、毎週水曜日に開かれる会計学のフォーラムに参加しました。ここでは、ドクター論文の最終報告やスタッフによる研究報告がなされていました。その研究報告のほとんどは、いわゆる実証研究でした。ある会計学の教授に聞いたところ、概念的な研究は、10数年前に終わってしまったとのことでした。アメリカ会計学会の機関誌に掲載される最近の論文や博士論文のほとんどがその種のものであることから、アメリカ会計学の主流が実証研究にあることは事実です。しかしながら、私には、アメリカの多くの会計学者は、概念的な研究によっては絶対的な解を引き出すことができないため、それを放棄してしまったように思われます。また、こういった実証研究の優位性は、アメリカのような多民族・多宗教のもとでの厳しい競争社会に根ざしている「個人はみずから体験したことだけを信じる」という実証精神に基づいて一般的に容認されるものであり、これをそのまま日本の会計学研究の在り方に導入するにはいささか疑問を持っています。



▲ イリノイ大学商学部本館

国際会計センターは、所長のV.K.ジンマーマン教授と2名の秘書とで、運営されています。その主な業務は、The International Journal of Accountingという雑誌の発行、われわれ客員研究員や提携大学と

の交換留学生の受入れ業務、年1回の国際セミナーの開催などです。客員研究員は、アジア人を中心に短期・長期の滞在者合わせて40名ほどいました。客員研究員の受入れは、所長の専断事項であり、極めて迅速です。留学先で最も気掛かりな住居も、既婚者であれば900を超える大学所有の所帯者用のアパートに通常入居できます。昨年の国際セミナーは、多くの海外からの参加者を交えて、「新ヨーロッパの会計」という統一テーマで、3日間の日程で開催されました。組織の活動量は、その構成員の数に必ずしも比例しないことを改めて教えられました。

また、イリノイ大学は、ベックマン研究所という世界に冠たるコンピュータの研究所を有し、アメリカにおけるその研究の拠点校になっています。大学が情報化・国際化時代に適合するために何をなすべきかを知るうえで、多くのことを学んだように思います。



▲ 左から、筆者、ジンマーマン博士、秘書

筆者は、平成2年度文部省在外研究員として、平成3年3月16日から平成4年1月15日まで、「欧米におけるインフレーション会計」について調査研究のため、アメリカ合衆国、連合王国及びフランスへ外国出張されました。



## 関 係 法 令

### (省 令)

- 国家公務員等の旅費支給規程の一部を改正する省令  
(大蔵3) 2.26
- 学校保健法施行規則の一部を改正する省令  
(文部2) 2.26

### (規 則)

- 人事院規則9-8(初任給,昇格,昇給等の基準)の一部を改正する人事院規則(人事院9-8-18)2.6
- 人事院規則8-18(採用試験)の一部を改正する人事院規則(同8-18-7) 2.28

### (告 示)

- 短期大学の位置を変更する件(文部17) 2.18

## 諸 会 議

### 第2回入学試験実施委員会(2月4日)

#### (審議事項)

- (1) 平成4年度富山大学入学者選抜試験の検査場について
- (2) 平成4年度富山大学私費外国人留学生入学者選抜関係委員の選出について

### 第2回入学試験委員会(2月4日)

#### (審議事項)

- (1) 平成4年度富山大学私費外国人留学生入学者選抜関係委員の選出について

### 第5回部局長懇談会(2月6日)

#### (議 題)

- (1) 当面する諸問題について
- (2) リカレント教育推進事業について
- (3) その他

### 第8回大学院委員会(2月14日)

#### (審議事項)

- (1) 平成4年度富山大学大学院人文科学研究科(修士課程)入学試験合格者の判定について
- (2) 平成4年度富山大学大学院理学研究科(修士課程)及び工学研究科(修士課程)第2次入学試験合格者の判定について
- (3) その他

### 第12回評議会(2月14日)

#### (報告事項)

- (1) 平成4年度富山大学大学院人文科学研究科(修士課程)入学試験合格者について

- (2) 平成4年度富山大学大学院理学研究科(修士課程)及び工学研究科(修士課程)第2次入学試験合格者について

- (3) 平成4年度富山大学教育専攻科入学者選抜試験合格者について

- (4) 平成4年度富山大学人文学部推薦入学試験実施状況について

- (5) 平成4年度富山大学入学志願状況について

- (6) 学生部報告

- (7) その他

### 第7回補導協議会(2月17日)

#### (審議事項)

- (1) 平成4年度入学生行事日程について
- (2) その他

### 第8回附属図書館商議会(2月17日)

#### (審議事項)

- (1) 平成5年度概算要求について

### 第11回大学教育改善検討委員会(2月18日)

#### (議 題)

- (1) 教育課程の編成について
- (2) 組織・制度の改革について
- (3) その他

### 第7回公開講座委員会(2月19日)

#### (議 題)

- (1) 平成4年度公開講座の実施計画について
- (2) その他

## 叙 位 ・ 叙 勲

元本学教授久保和美氏は、平成4年1月29日逝去（享年69才）されましたが、同氏の生前の功績に対し、同日

付けで正四位に叙され、勲三等旭日中綬章が授与されました。

## レ ク リ エ ー シ ョ ン

## 平成3年度全国公務員レクリエーション共同行事

## 富山地区ボーリング大会

平成3年度全国公務員レクリエーション共同行事富山地区ボーリング大会が、去る2月1日（土）13時15分から富山ゴールデンボウルにおいて開催されました。

本大会には、15機関から31チーム95名の参加があり、本学からは、A、B、C、Dの4チーム12名が参加しました。本学の4チームは、大変健闘しましたが、団体の部において上位入賞はなりませんでした。また、個人の部では、本学Cチームの中三川 敏之氏が6位入賞を果たしました。

なお、大会の成績は次のとおりでした。

（団体の部）

優 勝 富山地方検察庁 Aチーム  
準優勝 富山医科薬科大学 Aチーム  
3 位 富山食糧事務所 Aチーム

（個人の部） 〈略〉

## 海 外 渡 航 者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
海外研修旅行	工学部	講師	小出 真路	アメリカ合衆国	宇宙プラズマに関する国際会議 AGU Chapman Conferenceに出席し、研究討論及び資料収集を行う	4. 2. 12 ～ 4. 2. 24
	理学部	助教授	庄子 仁	デンマーク アメリカ合衆国	グリップ(GRIP)ワークショップに出席し、研究打合せを行う	4. 2. 28 ～4. 3. 24

## 職 員 消 息

## 《新任者住所》

庶務部庶務課 文部事務官 釜 谷 美貴子  
(庶務係)



# 主 要 行 事

## 本 部

- 2月1日 平成3年度全国公務員レクリエーション共同  
行事富山地区ボーリング大会（於：トヤマゴ  
ルデンボウル）
- 1～2日 共済組合スキー講習会
- 3日 東海・北陸地区国立学校等施設整備打合せ会  
（於：名古屋大学）
- 3～12日 学内会計監査
- 4日 第2回入学試験実施委員会  
第2回入学試験委員会
- 6日 第5回部局長懇談会
- 7日 平成3年度国立大学学生部長会議（於：東海  
大学校友会館）  
人文学部推薦入学合格者発表
- 10日 部課長会議
- 12日 公務員採用試験に関する講演会（於：経済学  
部201番教室）  
部課長会議
- 13～14日 推薦入学・社会人特別選抜入学手続き
- 13～21日 第38回中部地区中堅係員研修（於：名古屋大  
同庁舎第2号館）
- 14日 退職者説明会  
第8回大学院委員会  
第12回評議会  
大学院人文科学研究科、理学研究科、工学研  
究科合格者発表
- 17日 第7回補導協議会
- 18日 第11回大学教育改善検討委員会
- 19日 第7回公開講座委員会
- 20日 授業料免除担当課長会議（於：東京医科歯科  
大学）  
第30回全国厚生補導研究集会第1回運営委員  
会（於：鳥取・ホテルニューいなば）
- 21日 教室系技術職員待遇改善検討会
- 25日 A・前期日程及び私費外国人留学生入学試験
- 27～28日 臨時東海・北陸地区国立大学事務局長会議  
（於：本学）

## 人 文 学 部

- 2月3日 大学院人文科学研究科（修士課程）入学者選  
抜検査
- 5日 教授会  
教授会（人事）  
学科会議
- 12日 人文科学研究科委員会
- 14日 大学院人文科学研究科（修士課程）合格者発  
表
- 15日 後学期授業終了
- 18日 学部補導委員会
- 19日 学部将来計画委員会

## 教 育 学 部

- 2月2日 附属中学校入学者第1次選考（学力検査）
- 3日 学内会計監査
- 4日 附属小学校入学者第2次選考（抽選）
- 5日 人事教授会
- 6日 附属中学校入学者第2次選考（抽選）
- 7日 予算委員会
- 8日 授業終了
- 10日 教育専攻科入学者選抜試験
- 12日 学部教務委員会  
学部教務・補導合同委員会  
教授会
- 14日 教育専攻科合格者発表
- 17日 拡大学院将来計画委員会
- 19日 人事教授会
- 21日 附属養護学校教育実践研究会
- 26日 人事教授会

## 経 済 学 部

- 2月5日 学部教務委員会  
人事教授会  
教授会
- 6日 平成3年度学内会計監査

- 7日 係長会議  
 10日 後学期授業終了  
 12日 財務委員会  
 係長会議  
 17日 係長会議  
 18日 学部入学方法検討委員会と学部留学生委員会  
 との合同委員会  
 学部入学方法検討委員会  
 19日 学部教務委員会  
 21日 人事教授会  
 教授会

## 理 学 部

- 2月4日 教育改革問題等懇談会  
 5～6日 大学院理学研究科（修士課程）入学者選抜検査（第2次）  
 6日 大学院理学研究科（修士課程）入学者選抜検査（留学生）  
 12日 教授会  
 理学研究科委員会  
 人事教授会  
 13日 大学院構想懇談会  
 14日 大学院理学研究科（修士課程）合格者発表  
 15日 後学期授業終了  
 17日 学科主任会議  
 28日 学科主任会議  
 教育改革問題等懇談会

## 工 学 部

- 2月3日 係長連絡会  
 4～5日 大学院工学研究科（第2次）入学試験  
 5日 選考委員会  
 7日 学部教務委員会  
 10日 学内会計監査  
 12日 教授会  
 工学研究科委員会  
 専任教授会  
 13日 講演会「望ましい大学院教育について」  
 講師 大阪大学工学部教授 向井 喜彦  
 18日 授業終了

- 20日 北陸信越工業教育富山県支部講演会  
 「イギリス留学雑感」  
 講師 工学部助教授 山田 茂  
 21日 マレーシア工科大学副学長視察  
 24日 安全委員会  
 25日 前期日程入学者選抜学力試験  
 27日 係長連絡会

## 教 養 部

- 2月  
 1～2日 外国人留学生と教養部教職員との交流会  
 （スキー） （於：極楽坂スキー場）  
 4日 将来計画委員会  
 5日 人事教授会  
 教授会  
 7日 学内会計監査  
 10日 将来計画委員会  
 後学期授業終了（昼間主、夜間主コース）  
 12日 教授会  
 教養部長候補者選挙  
 14日 後学期末試験（昼間主、夜間主コース）  
 18日 将来計画委員会  
 22日 後学期末試験終了  
 24日 補導委員会  
 将来計画委員会  
 26日 教授会

## 附 属 図 書 館

- 2月5日 学内会計監査  
 6日 図書館専用電子計算機機種選定委員会  
 13日 第2回書香編集委員会  
 第3回附属図書館自己点検・評価検討委員会  
 17日 第8回附属図書館商議会  
 18日 平成2年度ILLシステム講習会（於：学術  
 情報センター）  
 21日 係長連絡会  
 26日 図書館職員研修会（於：富山県立図書館）  
 28日 ILLシステム説明会（於：金沢大学附属図書館）

**水素同位体機能研究センター**

2月13日 学内会計監査

**地域共同研究センター**

2月6日 お茶の水女子大学関係者視察

14日 大学院生教育講座「超伝導の現状と将来」

講師 客員教授 田中 靖三

先端技術講演会「次世代ジャイアント・マイクロエレクトロニクス技術」－大画面表示パネル用ポリシリコン技術と印刷技術－

講師 客員教授 斎藤 毅

19日 静岡大学、静岡県、浜松市関係者視察

20日 九州工業大学関係者視察

電気通信大学関係者視察

21日 マレーシア工科大学副学長視察

25日 徳島大学関係者視察

26日 地域共同研究センター運営委員会

**保健管理センター**

2月5日 健康の集い

6日 第1回保健管理センター委員会

12日 臨時健康診断（教養部スキー実習参加者）

13日 臨時健康診断（教育学部スキー実習参加者）

27日 第2回保健管理センター委員会

編 集 富山大学庶務部庶務課  
富山市五福3190  
印刷所 あけぼの企画株式会社  
富山市住吉町1丁目5-18  
電 話 (24) 1755(代)